

包装紙や包装された日本酒を手にする（右から）
さん、さん、さん
＝丹波篠山市で



地酒包装紙で活動PR

篠山東雲高生 特産品など図案化

酒米を栽培している
県立篠山東雲高校地域
農業科の3年生が、地
元の酒造会社「鳳鳴酒
造」と連携し、日本酒の
瓶に善く包装紙を制作
した。地元の特産品を
ちりばめたデザイン。
生徒たちが収穫した
酒米は同社で酒にな
り、この包装紙を使
って実際に販売されて
いる。

農業生産と経営につ
いて同科のアクリプロ
ダクト類型で学ぶ10人
が取り組んだ。このう
ちの生徒3人が15日に

同社を訪問してデザイ
ンを披露した。同校で
は、2018年度から
は、酒米「五百万石」
や「Hyogo Sake
85」を栽培してい
る。

包装紙作りに取り組
むのは3回目。先輩た
ちが描いた丹波篠山の
特産品や、同校が取り
組んでいる学習内容を
ベースに図案化し、文
章も加えて新たな包装
紙に仕上げた。裏面で
も、この5年間の「日
本酒プロジェクト」の

歩みを紹介している。
栽培した酒米を収穫し
て造られた酒を包装
し、「鳳鳴 田舎酒純
米 東雲の穂」（1・
8㍑、2340円など）
として販売中。
同社を訪問したのは
さん(18)、
さん(17)、
さん(18)。さ
んは「暑い日の草刈り
や、茎の本数、葉の長

さの測定などの育成調
査が大変だったが、後
輩たちもしっかりした
データを残す責任を感
じた」と話していた。
問い合わせは同社（0
79・552・633
8）。

2022年12月18日

毎日新聞